環境をテーマにした市民の持続的活動
ー奥州めぐみネットのこれからを考えるー

平成30年地域政策研究センター地域協働研究【ステージⅠ】 採択課題

課題名：移動・人と地域を育む環境市民活動の新たな展開を探る
～まちづくりの観点からの持続可能の実現を図る～
研究代表者：総合政策学部　教授　倉原宗孝
課題提案者：奥州環境市民会議奥州めぐみネット　代表・若生和江
同　　運営委員・花澤淳
技術キーワード：環境、市民活動、奥州、奥州めぐみネット、持続活動

▼研究の概要（背景・目標）

「環境」は現在とこれからを生きる私たちにとって非常に重要なテーマである。同時に地域や社会に貢献すべく行政・企業など既存主体ではない市民・住民の自主的な活動が近年いっそう注目されている。一方で、環境というテーマの今日的なとらえ方を再検討する必要性、また市民活動の持続的運営などの課題が全国的に伺えよう。本研究の母体となる奥州市環境市民会議奥州めぐみネット（奥州めぐみネット）は、環境をテーマにして市民が自発的に取り組んでいる団体だが、発足から約１０年を迎える中で、その持続的運営に向けて、こうした全国同様の課題を模索している。その中で奥州めぐみネットの今後の持続的活動に向けた方針や方法を再検討・再構築すること、他の同様な団体への示唆を提供することが本研究の目的である。

▼奥州めぐみネットのこれまでの取り組みと課題

平成29年3月「未来を見つめる100年循環都市」地球と共存する奥州の目指すべき循環像として、第2次奥州市環境基本計画が策定された。これに先駆け奥州市では、平成19年の環境基本条例策定、第１次奥州市環境基本計画策定から市民と協働で計画策定に取り組み、これまでおよそ10年間、環境基本計画の実行、進行管理等も担える団体の育成が目指されてきた。奥州めぐみネットは、この第1次環境基本計画の計画策定に関わった市民や市民団体、企業から構成される環境市民会議として、奥州市環境フォーラムの開催や自然観察会の実施、各種環境講座の開催などを通じて、市民への啓蒙活動を続けてきた。一方で、発足当初から10年が経つ中で、会員の高齢化や新規会員獲得の停滞、市からの予算削減等により、会員の講座参加率が年々減少している現状もある。また「環境」というテーマの今日的な捉え方、市民団体としての持続運営の形などについて再検討する機会にあるとも考えられる。

平成30年度年間スケジュールわかりやすさと魅力を工夫したパンフレット

カフェリビング・ウチダにて古いものを活用するリノベーションについての学習会

▼今年度と今後の取り組み

①魅力ある情報発信と活動内容へ
従来の活動を踏まえつつ、広く関心を持ってもらえる年間プログラムを企画し実践した。また魅力を感じてもらえるチラシ（情報発信）を試みた（左、環境イベントスケジュール）。

②自然環境を含めた多様な環境への視野
活動の対象を、自然環境に限らず、空き店舗や地域資源の活用・運営にもさらに目を向けていった。また多くの多様な世代・職種の融合を積極的に試みた（写真左下）。

③外からの意見・アイディア（大学生）との触発・創造
大学生の立場から当団体の活動や今後に向けた意見・提案、会員双方との議論を行った。学生からはストーリー性ある企画、SNS活用で手軽な情報発信、環境を素材にした食や遊び等の興味深い提案があった。団体内と外との議論は相互を触発した。

■意識・立場の違いを糧にする（大学生と実務者）
検討の中では学生と実務者との意識・立場の違いによる意見対立もあった。こうした「違い」を有効に活かす為にも時間・期間をかけて顔を合わせた議論を重ねることの大事さを改めて感じた。これは他団体の取り組みにも参考になると思う。

めぐみネット会員と外部（大学生）の意見交換が双方を刺激する場になった（上左）。学生提案では、活動ごとにオリジナルカードを発券（上中）、ユニークな案山子と共に町の探索、SNSの効果的利用、外来種の料理会など面白かった。

▼おわりに

模索的な思考実験だったが、従来の内容と共に今後が期待される取り組みに向かえた。学生提案は、SNS活用など抵抗を感じるものもあったが、ユニークな内容が多く、議論そのものに意義があった。具体の成果や課題解決には今少し期間が必要だが、今後、環境のテーマの中で時代に合った広がりのある活動を実験展開していきたい。